

宗谷

宗谷教職員組合

「宗谷情報」No.19 平成28年2月23日発行
発行責任者:高 一伸

〒097-0004 稚内市緑2丁目4-21 宗谷教育会館
Tel 0162-22-2480 FAX 0162-22-2484
web : http://www.soya-teachers.org Mail : info@soya-teachers.org



組合づくりを共に語り合おう

稚内支部の取り組みから

稚内支部では、組合づくりを真剣に考え合う取り組みを進めています。二月十七日の年次大会を「組合活動の現状と今後について考え合う場」とし、そのために分会討議など呼びかけてきました。

宗谷教組では、先日の定期大会でも確かめ合ったように、様々な社会情勢・教育課題に向かう運動を豊かにするために、私たち自身が組合に集い、運動をみんなで創ることを呼びかけています。この視点に沿って、稚内支部が取り組んでいる様子をまとめます。

宗谷教組が置かれている現状と、稚内支部の決意

第二七回定期大会議案書（ピンクの小冊子）の第三号議案「二〇一六年の私たちの運動について（活動方針）」では、組合活動を豊かにするために工夫をするこ

とや、役割を担い合うことを訴えています（左記囲み記事参照）。宗谷情報第一八号でも紹介したように、定期大会では町村の各支部から若い

先生方が討論に立ち、先輩から教えてもらった組合のことや、組合で体験・経験したことを自分の言葉で語る姿が見られました。

一方で、稚内支部では定期大会での討論にもあったように、「役員人事の生み出しの課題」を長い間抱えてきた経過があります。

稚内支部の苦悩と、挑戦

「学校の仕事が忙しくて組合どころではない」「分会会議ができない」など、稚内に限らず、組合活動を進める上での大きな壁があります。また組合離れ（組織拡大の難しさも、様々な事情で退会する方の増加なども）をはじめ、私たちが宗谷教組という組織の未来を考えるにあたり考えていかなければならない視点です。

宗谷教組本部と稚内支部では、この1年間「本部・稚内支部合同会議」を行ってきました。この会議を通して、「組合づくりを豊かにする観点」について議論して

きました。その中から生まれた企画が稚内支部青年部の「ゆるコン」でもありました。この議論の中で、明らかになったことがふたつあります。

ひとつは、稚内支部執行部の奮闘です。組合活動をするにあたって、教育関係者との対話活動はなくてはならない活動です。一般的には、教育長さんの懇談や、市町村校長会との懇談などがあります。また、支部によってはさらに広い懇談の場がある場合もあります。稚内支部の場合は、市教委や市校長会との懇談だけではなく、稚内市子育て推進協議会（子育て推進協）の対応もあります。子育て推進協の「構成団体」として、子育て推進協が主管する活動（例えば、南中ソーラン交流祭や全市子育て交流会など）の運営に支部長・書記長が役割を果たしてきた経過があります。こうした「教育関係者」としての対応を、稚内支部として重要視し、取り組み成果を上げているということがあります。

もうひとつは、「組合づくりを豊かにする観点」の議論です。例えば、稚内大規模校の各分会では町村の一支部に匹敵するほどの組合員のみなさんがいます。そうした中で、分会会議を開くことや、みんなが参加してよかったと感じる運営には相当な苦労があります。また、一人ひとりのそばで「組合が動いている」ということを実感できているかという点では、町村の各支部と違う感覚があるのは事実です。具体的には、宗谷教組が主催する集まりのおしらせなどが一人一人に伝わっていくことの困難性などです。

定期大会議案書 第3号議案 「2016年の私たちの運動について（活動方針）」より

組合活動を豊かに進めよう

任意加入の組織の悩みとして、「運動をどう後世につなげるか」「新たな会員をどうやって増やすのか」という課題がつきものです。宗谷教組もこうした悩みを潜在的に抱えてきました。教職員構成が若くて、経験年数を積むと他管異動をしがち…という文化の中で、宗谷教組の運動をどう創るか、歴史的な経過を踏まえた運動を未来につなげるかという観点での悩みがあるのは事実だし、みんな受け止めるべき課題です。

宗谷教組の活動は市町村を単位とする「支部」と、課題別に集う「専門部」があります。支部も専門部も、活動を組織する担い手が不足していることは否めません。もちろん、創意工夫をして、役割分担をしているみなさんがたくさんいます。一方で、苦しさや吐露される場面に出会うことが多くなりました。

一昔前と違って、職場の忙しさに拍車がかかっていたり、家庭の理解が得られにくいなど、若い世代特有の悩みがあることにも理解をしなければなりません。しかし、数百人という宗谷教組に加入する仲間のために、ひとり一人運動づくりを前進させるということをみんなで意識していきたい。このことが、あすの宗谷教組の運動が豊かに広がることにつながります。ぜひ、あなたの力を組合づくりに貸してください！



おもて面からつぎ

分会が、専門部が！ 語ることで「組合づくり」が見えてくる！

こうした二つの点をおさえた上で、「宗谷教組の『組合づくり』を豊かにする観点」から、宗谷教組本部と稚内支部の実践的な力合わせについて、本部から提案し議論をしています。具体的には、年間など時間を区切って、宗谷教組本部と稚内支部が、稚内支部の運動を共に運営して進めようということです。

各分会・専門部での 議論が豊かに広がる

稚内支部ではこの提案を受けて、二月一〇日に緊急分会長会議を開きました。この中で、「今後の役員の生み出し」ともに「稚内支部の組合づくりの今後」として分会長さんと議論をしました。その結果として「①年次大会を広く議論する場とすること」「②年次大会までに各分会で、この課題について議論をすること」を確か合っています。

2/10 分会長会議での議論

分会長会議では、「分会でこの問題を切実感をもって考えたい」という意見が多くありました。また、「数年後の支部役員体制を考えて、うまく運動や支部運営を引き継げるような工夫が必要」という意見、すでにある活動を現在の組合の組織力量をしっかりと確かめて再構築すること

の必要性について触れる議論もありました（例えば、支部活動と専門部活動の位置づけ・役割分担など）。討論のまとめとして、阿部書記長は「分会会議で広く意見を集めたい。分会での議論から創っていくのが大事だ」とまとめました。

各分会での議論から

すでにいくつかの分会で、この課題について分会討議をしていると聞きます。分会長会議を経て真つ先に分会会議をしたある大規模分会からは、「自分たちでつかりと支部執行部を生み出せるように考えたい」「二七日の年次大会には全員で参加しよう！」と確かめ合ったそうです。

また、別の大規模分会でも2時間近くかけて議論をしたと聞きます。「本部と支部の活動の位置づけがわかりづらい」という率直な思いから、「支部執行部の苦しさがそこまですると思わなかった」という声も。支部執行部の役員の生み出しの可能性についても議論したそうです。

稚内支部女性部総会では

二〇日には、支部女性部が総会をしました。この中でも議論になったそうです。「夫が役員として立つこと」についての経験談など、女性部だからできる観点で交流が行われたそうです。

リレーエッセイ「言の葉」

運動を組織するという事

よく、組合活動を語る際には「やることのおしらせばかりになっちゃう」という苦しさを感じます。たまに開いた分会会議では、署名のお願いと集まりのおしらせだけで精一杯…というように。

本当ならば、本部と各支部では「支部代表者会議」で情勢や課題の本質を確かめ合い、各支部では支部執行部の場や分会長会議などで、『どんな活動を創るか』という議論の後で、具体的な行動が生まれてくるのが望ましいです。でも、なかなか難しいものです。

そんな中、緊急分会長会議で、ある分会長さんが次のような趣旨のことをお話してくれました。

「これから数週間で、組合の集まりはたくさんある。組合本体の定期大会、「子どもたちの学びシンポジウム」、支部の年次大会、ピースウォークの学習会。4つある。そんな中で、本部には申し訳ないけど、自分は分会長として、分会に『全員でピースウォークの学習会に行こう』と強く提起したいんだ。」と。

聞けば、昨年秋の安保法成立の際に稚内支部が企画した街頭宣伝（アピール行動）に参加したけど、参加者が少なくて「悔しかった」と。いま、自分が大事だと思うことだし、みんなで考え合いたいから、数ある集まりの中から「ココ」と思って大胆に提起したい…という思いが伝わってきました。

宗谷教組本部にいる者として本音を言えば、少しずつそれぞれの集まりに集ってほしいです。しかし、それ以上に、この分会長さんの想いや、その思いを具体化する「提起」がしっかりしていることもあり、「こういう考え方もありかな」と思わせられました。それは、「なんとなく、おしらせが流れただけで、4つの集まりに誰もこない」のではなく、「意図的に組織した結果3つの集まりには来れないけど、ひとつを大事に、分会がみんな来た」という組織化があるからです。

ここで紹介したのは特殊な例ではありますが、「活動を創る」ということを考えさせられたひとつの例としてご紹介しました。

(宗谷教職員組合 本部/内藤 修司)

集い、つなぐりを創り合うために ……まとめにかえて……

一昔前と違って、組合づくりを担う(役員等の)世代が若いことや、家庭の理解の問題など苦しさがたくさんあることは事実なのかもしれません。このことを、

一昔前の世代のみなさんに聞くとこんな言葉が聞こえてきました。

「家として(夫婦として)、役員などを願われるというような『社会的役割』をどう担うのかを考えたもの。旦那にそういう役目が降ってきたときこそ、夫婦

で家庭を守り乗り越えたもんだよ(奥さんには苦労かけたけど…ね)」

そういう歴史を繰り返して、宗谷教組の活動はいまにつながってきたのです。

今回は稚内支部の取り組みを通して、『組合づくり』についてふれました。稚内支部年次大会が豊かに議論されることを願います。町村の各支部でも、送別会や歓迎会・支部総会などで次年度に向け組合活動の総括と展望が語られることを願います。

今回は稚内支部の取り組みをご紹介しました。町村の各支部でも様々な議論があると思います。ぜひ、本部にも教えてください。共に考え合いましょう！(naity)

